



■ 2002年度・京都支部委員任務分担について

第1回支部委員会において2002年度の支部委員任務分担が決定しましたのでお知らせ致します。

支 部 長	:	大館和郎 (京都学園大学)
事 務 局 長	:	大館和郎 (京都学園大学)
支部報編集・印刷	:	井上敏宏 (京都大学)、呑海沙織 (京都大学)
支 部 報 発 送	:	金森孝之 (京都大学)
H P と M L 担 当	:	吉田誠 (京都大学)、赤澤久弥 (京都大学)
研 究 企 画	:	赤澤久弥 (京都大学)、呑海沙織 (京都大学)
組 織	:	村上美代治 (龍谷大学)
財 政	:	吉田誠 (京都大学)
全 国 委 員	:	呑海沙織 (京都大学)

よろしくお願ひ致します。

■ 2002

[目 次]

2002年度・京都支部委員任務分担について	...	1
「韓国における大学図書館のアウトソーシング」について考える 篠原俊夫	...	2
大図研京都教珠つなぎ 第60回 村上 美代治	...	4
大学図書館問題研究会第33回全国大会報告 赤澤久弥	...	5
2002年度会費納入のお願い	...	12
2002年忘年会のお知らせ	...	12

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはURLへお寄せください。

電子メール: dtkk@rg7.so-net.ne.jp (大学図書館問題研究会京都支部)

URL: <http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/>

「韓国における大学図書館のアウトソーシング」について考える

篠原俊夫

近くて遠い隣国とは、韓国について使われる常套句である。陳腐な形容だと思うが、当たってはいなくもない。政治や経済、あるいは観光などにかかわることについては、情報量が格段に増えたが、大学図書館に関する情報に限定すればアメリカやイギリスの大学図書館に関する情報量に比較して大きな懸隔がある。日本の大学図書館がアメリカの大学図書館を理想のモデルとして、発展を模索してきた歴史的経過が最大の原因かと思うが、韓国をはじめとするアジア諸国の大学図書館間の交流が決定的に不足していることは明らかである。その意味で今回のワンデイ・セミナーがアウト・ソーシングを通して、韓国の大学図書館事情について知る機会を与えてくれたことは、有意義だったと思う。

私個人に関して言えば、これまで韓国で開催された IFLA などの大会に参加する機会もなく、私的に大学図書館を訪問することもしなかった。したがってまったくの白紙状態で韓国の大学図書館事情を聞くことになったわけであるが、今回のセミナーだけでも、ある程度韓国の大学図書館のイメージがつかめたように思う。

これまで私がアウトソーシングについて考えるときは、先駆的な試みがなされた場所が専らアメリカの大学図書館であったという事情もあり、日米の図書館事情の比較にとどまっていたと思う。いずれ英国、ヨーロッパ諸国の大学図書館とアウトソーシングについて、考えて見る必要があるとは思っていたが、韓国は視野の中になかったので不意をつかれる思いもした。今回、セミナーを受講した感想を書くように求められたので、アメリカの大学図書館においてアウトソーシングがどのように受容されているかを振り返りながら、韓国、日本、アメリカの大学図書館のアウトソーシングを考えてみたいと思う。

1990年代の前半、Arnold Hirshon が在職した Wright State University の目録業務を全面的にアウトソーシングしたことが、全米の大学図書館の議論を巻き起こした。また、その時の経験をもとに大学図書館の整理業務をアウトソーシングするためのマニュアルを出版している。無論、同時期に物議をかもし、結局は中止されたハワイ州立図書館の選書業務全面委託問題とともに良くも悪くも注目された。全面委託という点が問題視されただけで、アウトソーシングそのものは、90年代はじめにはすでに珍しいものではなくなっていた。93年頃には、アウトソーシング、ダウンサイジングをキーワードとする図書館学関係の論文も見うけられる。96年に、Joseph C. Hermon は「The death of quality cataloguing : does it make a difference for library users?」と題する論文の中で、「大学図書館の関係者なら、整理部門、とりわけ目録部門が図書館経費削減のためにカットされたり、縮小したりしていることは、もはや秘密でもなんでもない。」と書いている。80年代にはまだアメリカの大学図書館の目録部門のマネージャーは目録業務をアウトソーシングできるとは露ほどにも考えていなかった。ただ、上記の論文のショッキングなタイトルが示すように、高い品質の目録は死に瀕しているのだが、それが利用者に深刻な影響を及ぼすことはないのかという懸念である。影響があってもない袖は振れないという図書館側の説明で、利用者が納得するだろうか。

大学の経営に直接の責任を負うトップは、現実の図書館サービスに接することのない場所にいるため、図書館サービスの恩恵を身にしみて感ずる機会に乏しい。したがって図書館経費の

慢性的な切り下げが最終的に整理業務のアウトソーシングに帰結することの意味を理解していない。利用者は大学経費の窮乏が、大学図書館業務の品質低下につながる可能性を考慮することなく、より優れたサービスを要求する。サービスの質的低下の責めを直接負うことになるのは、当然、大学図書館あるいはそこに働くスタッフである。

自分たちはできる限りのサービスをしているというだけでは、事態は悪化するばかりである。もっと、図書館に足を運ぶことがなく、サービスの恩恵をしらない大学の経営トップに積極的に働きかけ、図書館サービスの意義を倦むことなく訴える努力をしなければ、図書館の未来は暗いとアメリカの大学図書館の図書館員は考えている。

紙数が残り少ないので、韓国の大学図書館におけるアウトソーシングの現状と将来の見とおしについて、当事者がどう考えているのかという肝心の問題に戻りたい。

一言で言えば、韓国、日本、アメリカの大学図書館におけるアウトソーシングの捉え方に根本的な相違は認められないと思える。

アウトソーシングは図書館経費の削減に伴う、やむを得ない対応策のひとつであり、対象業務はサービスの根幹にかかわらない業務にとどめるべきであること。

アウトソーシングした業務の外部業者に対するマネジメントに十分留意すること。

事前に十分な計画と職員内部の合意形成に努めること、等々。

しかし、アメリカでは、多くの図書館人が大勢として図書館におけるアウトソーシングの流れは整理業務を中心として、止まることはないという点で一致しているものの、アウトソーシングの現況に対する評価という点では、その多くが見かけだおしにすぎないとする意見もある。大学として、あるいは図書館として経費削減に取り組んでいるという姿勢を安直に示す手段としてアウトソーシングに走っているのではないか、という疑問である。アウトソーシングは質的なものの低下やマネジメントの労力を考慮すれば、コストに見合うものになっていないのではないか。その点について、科学的な検証がなされないままに歯止めのないアウトソーシングになだれ込む危険がないとは言えない。現状の各国の大学図書館事情はその点では、同じ問題を抱えていると考えられる。

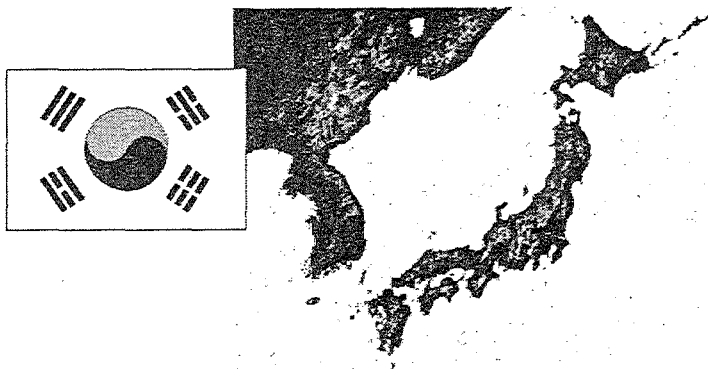
標準化、単純化、整備されたネットワーク環境などの条件が整えば、整理業務のアウトソーシングがスムーズに進行することについては合意されるとしても、利用者サービスに関する業務のアウトソーシングは可能だろうか。将来的な可能性はアメリカの大学図書館関係者も示唆しているが、あくまで可能性にとどまっている。

アウトソーシングは本来、大学図書館が求めて取り組んだというより、経費削減のための止むを得ない手段として導入されたものである。したがって積極的な利用者サービスへの寄与という観点はない。アウトソーシングという用語そのものが本来、企業経営の分野で用いられるものであり、図書館業務の経費的合理化に当てはめただけというちぐはぐさがある。

今回のセミナーを受講し、私がこれまで考えてきたことをもう少し、丁寧に掘り下げてみたいと思っている。その意味でいい刺激を与えられ感謝している。

何より、整理された報告と見事な通訳、適切な進行があいまって予想した以上に理解しやすいものであった。

(しのはら としお)



連載コーナー

大図研京都数珠つなぎ 第60回

図書館員としての感性を磨いています。

龍谷大学学術情報センター瀬田図書館

むらかみ みよじ
村上 美代治 さん

久しく図書館現場を離れていましたが、今春縁あって瀬田キャンパス（滋賀県）の図書館に戻ってくることになりました。皆さんといっしょに再び活動することができることに喜びを感じています。皆さんのご指導、ご鞭撻をお願いします。大図研もいつの間にか多くの先輩図書館員が退職されている一方、若いエネルギーな人たちが活動の中心になられているのを見るにつけ、世代交代が着実に進んでいることを感じております。私自身、図書館を離れていた間も大図研会員ではありましたが、実質ペーパー会員であり、事実上休会の状態にありました。やはり、本業（私の場合には教務関係業務）と図書館の両刀遣いは困難でした。

現場を離れた時期は、戦後2番目の大学改革（大学設置基準の大綱化や自己点検・自己評価）が開始された時期であり、大学全体が超繁忙期に突入した時期でもありました。図書館においても激動期を迎えた時期であったと思います。コンピュータ導入、とりわけネットワークを介して業務を遂行しはじめた時期でした。その意味では、コンピュータの醍醐味あるいは苦勞をしないで戻ってきたという感じです。コンピュータや通信機器の発展は著しく、本学図書館では来年4月にシステムのリプレイスが実施されることになっています。

ところで、殆どの私立大学図書館では、職員の異動を前提に管理・運営がおこなわれています。図書館から別の職場に異動した人もいれば、別の職場から新たに図書館に異動してきた人もおられます。どちらにせよ図書館業務に就いているのは一時的な状態にあるのが実情です。図書館の真髄を理解せず、うわべだけを理解して異動されているのをしばし目にして、図書館にとっても本人にとっても不幸ではないかと日頃から思っています。この事態を利用者はどのように考えているのでしょうか。利用者は、図書館員にとってはあまり気にとめないであろうことがよく見える一方、図書館ではいかなる運営が行われているのだろうか、図書館員は運営の要であること等の疑問や思いを抱いておられると思います。

長らく図書館部外者であった私がいざ現場に戻ってみると、課題山積の実態、あるいは自分が思い描いていた図書館と現実の図書館との違いの落差に戸惑いを感じました。幸いにも、大図研やJLAが図書館員の拠り所になってくれていることに会員としての安堵感を持って業務に携わっています。特に、大図研という団体は、個々人の力量だけでは図書館という組織体としての可能性追求に限度があるものの、会員が手を携えて協力しあうことによって、会員の力量アップに繋がり、結果として大学図書館の発展に結びつくことを可能ならしめる身近な存在であると信じています。

私は、図書館現場を離れていた空白期間を埋めるための方策の1つは、図書館員としての感性を磨くことだと思っています。これまでの図書館を見てきた経験からすれば図書館業務には図書館員としての感性がなくとも仕事をこなすことはできると思います。しかし利用者に信頼された図書館やサービスの多様化や深化に対応した図書館を構築していくためには、プラスαが必要だと思っています。これは単に経験や知識だけでは解決し得ない点だと思っています。図書館員としてのキャリアを磨くためには、目に見えない感性が必要だと思っています。自己の努力と日々

の研鑽がプラスαを作り出してくれるものと信じています。

間宮不二雄は村上清造に間宮文庫の寄贈先選定にあたって、「図書館員に図書館の本を利用させるくせをつけないで、いかにして図書館が一般市民に読書の呼びかけができるでしょうか」と述べています。図書館員の育成に図書館関係資料の蒐集は不可欠という信念のもとに、富山県立図書館への寄贈に至った経過が『間宮文庫目録』に紹介されています。図書館資料の構築がなされないところには間宮文庫を寄贈しないと言っていることが頭に焼き付いています。この思想は現代にも通じるものがあるのではないのでしょうか。図書館員としての感性を磨くために、図書館資料の探索と同時に図書館に関する催しにも積極的に出席したいと思います。

最後になりましたが、9月19日開催の大図研京都支部総会において役員に選出されました。みなさまのご協力により活発なる研究会にしていきたいと思ひます。よろしくお祈ひします。



大学図書館問題研究会第33回全国大会報告

ミッション・ステートメント

赤澤 久 弥



今回参加した経営分科会では、慶應義塾大学三田メディアセンターにおけるアウトソーシング事例の報告が行われた。当日は、アウトソーシングのマネジメントの実際について熱心な質疑が交され、アウトソース化の広がり強く印象づけられた。一方、分科会のもう一つのテーマとして設定されていた、「図書館のミッション」を巡って議論するにはやや時間不足のきらいもあったが、あらためてこのテーマを考えるきっかけを与えてもらった。そこで分科会の報告は『大学の図書館』に譲り、いただいた紙幅は「ミッション・ステートメント」について、使わせていただきたい。

「ミッション・ステートメント」というと洋モノの印象が強いが、元来、日本でも企業では「社是・社訓」、また私学などでは「建学の理念」といった形で存在していたものであろう。ただし、図書館としての「ミッション」を明確な形で掲げることは、これまで多くなかったように思われる。現在、web上の確認できる場所にミッション・ステートメントに相当するものを掲載している大学図書館としては、東北大学、山梨大学、信州大学、山口大学などがある¹⁾。また、国立大学においては、近年の自己点検・評価報告書や外部評価報告書、将来構想報告書といったものの中で、「ミッション」という形での明確な位置づけはなくとも理念や目標について言及している例は多い。これらは、大学設置基準の大綱化に伴う自己点検・評価の導入(平成3年)とこれの義務化(平成11年)や大学審議会答申『21世紀の大学像と今後の改革方策について』²⁾(平成10年)に言うところの大学の理念・目標の明確化とこれに基づく、大学評価制度の導入を背景にしたものと考えられる。近頃、大学がその理念を策定・表明する例も見られるが、上にあげた各図書館のミッション・ステートメント作成もこうした流れの中に位置づけられるものであろう。また現在、独法化を前にして、国立大学の各組織で作成を求められている「理念と目標」を先取りした

ものであるとも言えよう。以上から考えると、とくに国立大学における近年のミッション・ステートメント作成は、政策に後押しされての側面は無視できない。しかし、経営分科会のテーマとして指摘されていたように、今後はすべての大学において、「経営」的視点からのミッションの位置づけが、より必要になると思われる。そういった意味からも、ミッション・ステートメントの導入において先行している、海外の図書館の事例に注目してみたい。導入の背景には、非営利組織経営論や企業マネジメント手法などがあるものと想像される³⁾。これが現在のよう形で図書館に取り入れられるようになった経緯も興味が引かれるところであるが、まずミッション・ステートメントの訳出を試みた。

今回あらためて訳してみると、基本的に似通った点が散見される。おおざっぱではあるが、おおよそ共通する要素としては、以下のようなものがあげられるだろうか。

- ・シンプルな言葉からなる。
- ・学内複数図書館全体としてのミッション・ステートメントである（もちろん各図書館のミッション・ステートメントが存在するケースはありうる）。
- ・サービス対象として、自大学の学生・教員等および学術コミュニティ全体をあげる。
- ・機能として、コレクションの収集・整理・保存、そして情報アクセスや情報リテラシー教育などのサービスによる教育・研究支援をあげる。

今後社会的要請としても、組織の存在理由の説明がこれまでになかったほど求められることになろうと予想される。自身にとってはあまりに自明だったためだろうか、とくに図書館は、これまで「誰のために何をするか」を「外」に対して、必ずしも分かりやすくは伝えてこなかったのではないかと思われる。ならば、きっかけはなんであれ「図書館の使命」を今、言挙げするのも悪くないのではないだろうか。それを実質ある言葉として、実際に示していくことが求められるのは言うまでもない。しかし、まずは図書館員が誇り持って語れる、魅力的な「ミッション・ステートメント」を持ちたいと思う。

ミッション・ステートメント 試訳

- ・ミッション・ステートメント訳出は、経営分科会での一橋大の小野亘さんの提案をきっかけにしている。
- ・ミッション・ステートメントの作成年月が明記されているものは少ないが、訳出分はすべて昨年(2001年)11月時点で、webにアップされていることを確認している。
- ・ミッション・ステートメントは、一般に「ミッション」にあたる部分とそれを達成するための目標(Vision)等から構成されるケースが多いが、ここでは前者のみを訳したものが多い。もとより拙訳であるため、実際には元の英文をご覧いただきたい。
- ・web上で確認できたものを対象にしている。図書館の選択には基準はないが、米国については、『ゴーマンレポート 10th ed.[日本語版]』アイ・エル・エス出版、1998のTop100リストを参考にした。
- ・web上にあっては、サイト内のどこに掲載されているかは重要と考え、URLとともに図書館ホームページからの階層を示した。

ミシガン大学

<http://www.lib.umich.edu/dls/profile.pdf>

Home > Visitors

『University Library Profile』の一節

図書館の使命は、教員・学生・職員の教育・研究・業務を支援し、その向上を図り、そして共同することであり、さらには人類の知の記録を収集・整理・保存し、利用者と結び付け、分かちあうことにより、公益に貢献することである。この使命は、図書館システムの利用者には有用な各種のコレクションとプログラムを提供することにより達成される。

カリフォルニア大学ロスアンゼルス校

http://www.library.ucla.edu/administration/mission_statement.html

Home > Library Administration > Mission Statement

『Mission Statement』

図書館の使命は、研究・教育という大学の使命を支援するため、UCLAの教員・学生・職員に、情報資源へのアクセス手段および情報資源そのものを提供することである。図書館は、そのコレクションをもっとも使いやすいように構築・整理・保存するとともに学外情報源へのリンクも提供する。図書館は、利用者自身がその学術的・知的なニーズを満たすことができるようにするため、情報リテラシーおよび情報マネジメント教育等のサービスを提供する。図書館は、可能な限り学外の利用者にもその資料とサービスを提供する。

図書館は、高いスキルを持つスタッフにより、自らの革新を求め、ふさわしい技術を取り入れ、有意義なパートナーシップを築き、そして積極的によりよい図書館を目指す。

マサチューセッツ工科大学 4)

<http://libraries.mit.edu/about/mission.html>

Home > About Us

『Mission』

MIT 図書館群は研究、学習における創造的なパートナーです。

私たちは、MITの教育・研究に関する情報資源を選定、整理、提供、保存します。

私たちは、国際的に評価されるこれら情報資源を維持し、現在そして未来の学術研究コミュニティのために質の高いサービスを提供します。

私たちは、これらの情報資源どうしを知的に結びつけるとともに情報の有効な活用についてMIT構成員を教育します。

私たちは、MIT構成員が情報を必要とした時、まず思いつく場所となることを目指します。

-1999年2月

カリフォルニア工科大学

<http://library.caltech.edu/about/default.htm>

Home > About the Library

『CLS Mission Statement』

カリフォルニア工科大学図書館システムは、大学の教育・研究プログラムを支援し促進するため、求められる時に最適なコストで、図書館資料と最上質の先進的情報サービスを提供する。

『CLS Vision Statement』

我々はカリフォルニア工科大学の学術的・科学的優位性に不可欠な、活動的かつ利用者指向の組織である。

ノースウェスタン大学

<http://staffweb.library.northwestern.edu/admin/stratp2000.pdf>

Home > Library Administration > Selected Publications

『Strategic Plan, Fiscal Year 2001-2003』

『Mission Statement』

ノースウェスタン大学図書館の使命は、大学の教育・研究・専門・運営の各プログラムを支え

向上させるため、情報資源と最上質のサービスを提供することである。図書館は、自立した学習へ導く環境および資料を図書館内および全学の利用者さらには学術コミュニティ全体に提供する。

図書館は、環境の激変の中、大学と情報の結合に指導的役割を果たすことで、利用者の要求に応えることを表明する。図書館は、情報資源に関する選定・整理・アクセス手段提供・保存および活用のための利用者教育における革新的な戦略を構築する。そのため、利用者が必要とする資料とを結び付けるために、図書館外部との有効なパートナーシップを築く。

「Vision」

(以下略)

ノートルダム大学

<http://lib.nd.edu/aboutlib/mission.shtml>

Home > University Libraries > About the Libraries

『Mission and Vision of the University Libraries of Notre Dame』

「Our Mission」

ノートルダム大学の情報資源において主要な位置を占めるものとして、以下により大学の目的に貢献することをノートルダム大学図書館群の使命とする。

1. どこであっても情報資源へのアクセスを提供する。
2. 授業・研究・サービスの支援に必要な図書館資料を形態の如何に関わらず収集する。
3. 図書館の重要なコレクションとユニークな資料を未来の学問のために保存する。
4. 所蔵しない情報資源への適切なアクセスを保証するため広範な協力プログラムに参画する。
5. 図書館の資料と機能のため、また図書館の情報資源とサービスを利用する人たちのために図書館施設を望ましい状態に維持する。
6. 情報資源の特定と効果的な使用に関して、教員・学生・職員を教育し、また支援する。
7. 大学の目標の追求のため、学術資源マネジメントと情報技術の活用において、他部門との協調のもとにリーダーシップを発揮する。

「Our Vision」

(以下略)

ブラウン大学

http://www.brown.edu/Facilities/University_Library/MODEL/SPSC/index.html

Home > More > library departments & staff > strategic planning

『A Strategic Plan for the Brown University Library』

「Our Mission」

ブラウン大学図書館は、最新の情報と学術的記録の身近な保管庫として、またそれらへの主たる入り口として、教育・研究という大学の使命を支援します。そのために図書館は、第一には現在および未来のブラウン大学の学生と教員のためのコレクションであり伝達者でありそして教室であって、加えてその他の大学関係者、地域および国内外の学習・研究コミュニティのためにも貢献するものです。

「Our Vision」

(以下略)

ミネソタ大学

Home > About the Libraries > Vision and Mission Statements

『Vision and Mission Statements』

「Vision Statement」

ミネソタ大学図書館群は、高品質な情報への迅速なアクセスにとって、ミネソタ大学における第一の選択肢である。

知的かつ革新的でサービス指向の図書館職員は、

- ・情報に関する資源とスキルを大学の教育、研究、サービス全般の使命に融合させる。
- ・ユニークなデジタル資源、サービスを開発する。
- ・経済的に持続可能な学術コミュニケーションの創造に共同する。

「Mission Statement」

図書館の使命は、現在と未来の利用者のため、人類の思考・知識そして文化の記録へのアクセスを整備し、またこれを保存することである。図書館は、コレクションの構築・サービスの提供・情報技術の創造的な応用によって、研究と発見・教育と学習・福祉と公共サービスという三つの組み合わせからなる大学の使命を支援する。

「Values」

(以下略)

ライス大学

<http://www.rice.edu/fondren/info/history.html>

Home > General Info > History of Fondren Library

『Mission Statement』

ライス大学フォンドレン図書館の使命は、文学・科学・芸術分野の発展およびすべての活動における卓越性の追求のため、学部および大学院教育に強力に参画することによって、大学の教育・研究・公共サービスプログラムを支援することである。フォンドレン図書館のコレクションとサービスは、図書館は単なる本のコレクションではなく、新進および名声ある学者が、情報を手に入れまた学びや創造の試みへと導く環境の下に集う場所として、その知的なスタッフおよび先進的情報技術と合わせて大学にとっての不可欠な資源である、という理念に基づいている。

カーネギー・メロン大学

<http://www.library.cmu.edu/Libraries/sp.html>

Home > Libraries and Collections > Strategic Plan

『University Libraries' Strategic Plan』

「Vision」

カーネギー・メロン大学図書館群は、大学コミュニティの情報に対する現在のそして絶えず変化するニーズに対して、機敏に応えることができるように策定された、創造的、専門的な、また先進情報技術によるサービスを提供する。

「Mission」

- ・大学における教育、研究、芸術的および学術的な試みを支援し、これに貢献すること。
- ・情報資源のもっとも効果的な利用のため、これを収集・整理し、利用可能にし、維持・保存すること。
- ・図書館サービス、図書館資料、そして遍在する情報へのアクセスに関する知識を育て、広めること。

ワシントン大学

<http://library.wustl.edu/about/vision.html>

Home > About the Libraries > Library Vision, Mission, and Goals

『WU Libraries Vision, Mission, & Goals』

「Vision」

私たちはこんな図書館にしようと考えています。

- ・すべての図書館活動の中心に利用者を据えて、大学構成員の様々な要望と期待に迅速に応えます。
- ・誰にとっても魅力的で居心地がよく使いやすく安全です。

- ・図書館の内と外のどちらにも豊かな情報資源とコレクションを持ちます。
- ・共同的で革新的な教育・学習・研究環境をともに構築します。

「Mission」

ワシントン大学図書館群の使命は、大学コミュニティ全体に対し、必要なときに効率的な情報アクセスを提供することで、大学における学習・教育・研究そして創造の発現を支援することである。

「Goals」

(以下略)

ラトガース大学

<http://www.libraries.rutgers.edu/rul/about/about.shtml>

Home > About the Libraries

『Mission Statement』

ラトガース大学図書館群は、ラトガース・ニュージャージー州立大学における研究および教育プログラムにとって不可欠な存在である。

図書館は、大学における情報リテラシーと学術コミュニケーション活動を先導する、サービスと学習のための組織である。

図書館は、ラトガース大学の学生や教員、ニュージャージー州住民および学術コミュニティ全般に対し、知的探求や知識の創造そして生涯学習を支援するために学術情報資源へのアクセスを提供する。

ピッツバーグ大学

<http://www.library.pitt.edu/uls/>

Home > University Library System

『University Library System Mission Statement』

ピッツバーグ大学図書館システムの使命は、教育・学習・研究・創造・地域サービスにおける大学の先導的目的の達成にとって不可欠な情報資源へのアクセスを提供し促進することであり、また効果的な情報・教授・学習システムの開発において共同することである。

『University Library System Quality Service Commitment Statement』

(以下略)

アリゾナ大学

http://www.library.arizona.edu/library/teams/slrp/00_01VMP.html

Home > Library Information > Mission, Vision and Current Situation Analysis

『Mission(revised Jan 2002)』

生涯学習の能力と継続教育の成果の向上を図るため、アリゾナ大学図書館は、自由かつ開かれた探求の環境、そして自らの卓越性の表明を持って、学生・教員・職員およびその他利用者のあらゆる教育・研究のニーズに応えることに専心する。

オックスフォード大学 (ボードリアン図書館)

<http://www.bodley.ox.ac.uk/mission.html>

Home > Reports and Policies > Mission Statement

『Mission and Objectives』

「Mission」

図書館の使命は、現在そして将来において、オックスフォード大学および国内外の学術コミュニティの教育・研究のニーズを支援するため、コレクションとサービスを維持し構築することである。この使命を実現するため、図書館は常に次の事項を目指す。

- (a)現在の利用者および潜在的利用者のニーズへの理解を育て持続し、そしてこれに応える。
- (b)必要なコレクションおよびサービスを構築し、これらへのアクセスを提供する。
- (c)未来の利用者のためにコレクションを保存する。
- (d)すべてのスタッフについての適切なスキルとモチベーションを開発する。
- (e)財政的継続性を確保する。
- (f)カレッジを含む他の大学組織との良好な関係を強化する。
- (g)オックスフォードおよび全世界の図書館と協力する。
- (h)以上の目標を達成するため、すべての分野において、テクノロジーの可能性を活用する。

シェフィールド大学

<http://www.shef.ac.uk/library/libdocs/indexsp.pdf>

Home > Documentation

『New worlds of information : The Library Strategic Plan 2002/2003 - 2004/2005 』

「Mission statement and objectives」

大学の使命は、スタッフが学術的探求の最先端で研究をし、また研究的環境の中で学生教育が行われるよう、研究指向大学としてもっとも優れた基準を維持することである。

図書館の役割は、研究・学習・教育のために大学構成員が必要とする情報資源へのアクセスを提供することである。

図書館の主要な目標は次のとおりである。

(以下略)

ポーツマス大学

<http://www.libr.port.ac.uk/policy/mission.html>

Home > Library Policy

『Mission Statement & Strategic Aims』

「Mission Statement」

図書館は、大学の総合的目的および目標を支援するため、ミッションステートメントと戦略計画によって具体化されるところの統合的図書館・情報サービスを提供する。コスト面の有効性に充分配慮しつつ、図書館は利用者の要求に機敏であり続けるとともにサービスの開発およびニューテクノロジーの活用に積極的に取り組む。

「Strategic Aims」

(以下略)

香港工科大学

<http://library.ust.hk/info/mission.html>

Home > About the Library

『Library Mission』

大学の教育・研究プログラムを支援すること。

香港工科大学の学生へ一般教育を提供し、これを推進すること。

情報の共有と交換において、香港および地域の発展に寄与すること。

- 1) 東北大学 <<http://www.library.tohoku.ac.jp/pub/future.html>>
- 山梨大学 <<http://www.lib.yamanashi.ac.jp/concept.htm>>
- 信州大学 <<http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/kashin10/kashin102.htm>>
- 山口大学 <<http://www.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp/rinen/rinen.html>>
- <<http://www.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp/jikoten/>>

- 2) 『21世紀の大学像と今後の改革方策について』
 < http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/daigaku/toushin/981002.htm >
- 3) 企業におけるミッション・ステートメントの例については、パトリシア・ジョーンズ他
 『世界最強の社訓』講談社, 2001
- 4) MITの図書館運営については、呑海沙織「マサチューセッツ工科大学の図書館運営」『図書館雑誌』95(2):2001.2

[URLはすべて2002年11月5日に確認]

あかざわ ひさや (京都大学工学研究科・工学部電気系図書室)

◆ 2002年度会費納入のお願い ◆

冬を感じさせる日々が続いていますが、会員の皆様におかれましてはご活躍のことと存じます。例年よりも遅くなりましたが、会員の皆さまに2002年度大図研会費および京都支部会費の納入をお願いいたく、ご案内させていただきます。

大学図書館問題研究会会費	¥5,000
京都支部会費	¥2,000
合計	¥7,000

会費は下記講座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員にことづけていただきますようお願いいたします。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904
 大学図書館問題研究会京都支部

近年は会費の納入率も思わしくなく、セミナー等研究活動への影響が生じる可能性もありますので、会員の皆様におかれましては、早めの納入にご協力いただきますようお願いいたします。

ご不明な点は、京都支部財政担当・吉田 (京都大学物理工学系図書室)
 myos@m02.mbox.media.kyoto-u.ac.jp までお願いいたします。

◆ 2002年 忘年会のご案内 ◆

*下記日程で大図研京都支部の2002年・忘年会を催します。

日時：12月3日(火) 19時～
 場所：「大文字」 京都府京都市左京区吉田泉殿町42-3
 電話 075-751-6510

◆皆様、是非ご参加ください◆

